

歯みがきサポートシートをベースに、 よりきめ細かい目標を設定しています

立川市社会福祉協議会 知的障害者デイサービスセンター・コスモス

日常生活の自立を目指し、個別支援計画表を基に毎日の生活を支援しています。

個別支援計画表には、食事、排泄、手洗い、衣服の着脱などともに、歯みがきの項目も入れて、個々の支援目標と支援方法を設定し、総合的・客観的な評価ができるように工夫しているところです。

歯みがきの部分は、「歯みがきサポートシート(※)」を活用し、個々の利用者の現状を把握、目標を設定して支援を開始しました。ところが、実際にやってみると、当施設の利用者の場合は、もう少しきめ細かいステップアップ目標の設定が必要がわかりました。そこで、職員が試行錯誤しながら、(表1)のような「歯みがき個別支援表」を作成しました。1年に2～3回のペースで、評価と目標の見直しをする予定ですが、個々の上達に合わせて、随時、検討しながら進めています。

(表1) 「歯みがき個別支援表」(歯みがきサポートシート改編例)

利用者氏名	歯みがきテクニック 目標	援助方法
A	歯ブラシを自分で歯に当てることに慣れてもらう。	後ろに回って手添えをして、10カウントしながらみがく。
B	左下の奥歯のかみ合わせを自分でみがけるようにする。	職員も自分の歯ブラシで、かみ合わせから10カウントでみがく。後ろに回って手添えで仕上げる。
C	前歯を縦みがきでみがけるようにする。	職員の真似をしてもらう。必要に応じて手を添えて動かす。
D	自分で全体をみがけるようにする。最後に鏡でチェックする。(職員はそばについて)	必要に応じて声かけを行う。

(※) 障害者のための8020生活実践プログラム・1 基礎編

<個別支援事例>

仕上げみがきがストレスとなって自傷行為を生じるCさん

Cさん(20代、男性)は、自分で歯ブラシを口に入れることはできますが、うまくみがくことができません。また、他人から口を触られることに、強い恐怖感を持っていました。職員が食後の歯みがき時に、Cさんの頭部を抱えて仕上げみがきをしようとする、緊張し、震えて、自分の手を引っかいてしまいます。そこで、仕上げみがきの間、Cさんにお盆を持ってもらいました。(写真下)

すると、お盆を持つ手は緊張するものの、自傷行為は生じず、がまんできることがわかりました。この方法で毎日続けた結果、だんだんと緊張が和らいできて、3ヶ月目くらいからは、お盆を持たずに仕上げみがきをやってもらうことができるようになりました。今では、歯みがきに少し自信がつき、「前歯の表側、下の奥歯のかみ合わせを自分でみがく。」を目標に、毎日繰り返しがんばっているCさんです。



歯の健康づくり 嘱託歯科医とともに取り組んでいます

清瀬市障害者福祉センター 清瀬ひまわり園（知的障害者更生施設（通所））

重度の知的障害がある方々の自立と社会参加を支援している清瀬ひまわり園では、利用者の健康管理にも力を入れています。清瀬市歯科医師会の会員であり、市内で開業している筒井先生が、清瀬ひまわり園の嘱託歯科医師になったのは平成14年でした。

以後、利用者の口腔内状況を改善するため、施設職員と筒井先生は、毎年の歯科健診の結果などを基に話し合いながら、いろいろと工夫を重ねてきました。

- 1年目は、保護者対象に「口腔ケア講習会」を実施。
- 2年目は、利用者自身への歯みがき指導として「自分でみがこう講習会」を実施。
- 3年目は、保健だよりに「むし歯について」を掲載し、職員向けに「仕上げみがき技術の向上をめざそう」という講習会を実施。（写真）

「以前は、障害者の歯科診療は私の経験が少ないこともあり、敬遠しがちでした。しかし、清瀬ひまわり園の嘱託歯科医となり、障害のある方々と接する機会が増えてくると、だんだん対応にも慣れ、親しみがわいてきました。来園するたびに、『あっ、筒井先生!』と、利用者の方々から声をかけられることが、今ではとても嬉しく、一人ひとりのことがかわいいなと思うようになりました。」という筒井先生。園での経験を生かして、最近では在宅訪問診療の場でも、歯みがき指導を取り入れるようになったということです。



筒井先生（左）の指導を受けながら仕上げみがきをする職員。
職員同士の相互実習の風景です。



みんな なかよ^し齒 8020

生活支援員と歯科衛生士が手を組んで、 口腔ケア奮闘中!

あきる野市 金木星の郷(知的障害者更生施設(入所))

金木星の郷は、特に自閉傾向のある知的障害者の方々が、地域社会で自立した日常生活を営めるように支援・訓練する場として、平成15年4月に開設した新しい施設です。

歯科衛生士の瀧島かおりさんは、非常勤生活支援員として週に2～3日間勤務し、利用者50人の歯科保健管理に従事しています。瀧島さんは、5年前から東大和療育センターの外来診療部門の歯科に勤務しており、同センターからの推薦を受けて、平成16年4月に金木星の郷に入りました。

「これまで毎日、診療室で障害のある方々に接してきたので、慣れているつもりでしたが、実際に生活の場に入ってみると、わからないことが多くて、戸惑いの連続でした。」と瀧島さん。利用者の中には未処置のむし歯がある人もいるため、歯科通院に同行介助することも瀧島さんの仕事です。知的障害者を受け入れてくれる医療機関を探すために、西多摩歯科医師会の協力を得て、数箇所の歯科診療所を紹介してもらいました。一般の歯科診療所での対応が難しい重度障害がある人については、東大和療育センター歯科に紹介しています。この他、自宅に帰ったときに歯科治療を受けている利用者もいます。利用者のさまざまな歯科のニーズに対応できるよう、今、口腔内状況や家庭調査結果等を基に、個別の歯科情報を把握・整理しているところです。

副施設長の岩田信男さんは、次のように語っています。

「障害者の歯科の問題は、治療や通院のことだけではないと思います。大切なのは予防であり、毎日の口腔ケアをしっかりと定着させることではないでしょうか。そのためには、職員全員が口腔ケアの重要性を理解し、毎日の生活の中で、適切な支援ができるような力を身につける必要があります。瀧島さんには、この部分で大いに活躍してもらいたいと思っています。」

このような期待に応えるために、瀧島さんは、勤務日には朝食後の歯みがきタイムに間に合うよう8時過ぎに出勤し、自らも歯みがき介助に携わりながら、生活支援員一人ひとりに、各利用者に合わせた口腔ケアのポイントをアドバイスしています。(写真1)

また、歯みがきの成果がわかるような写真資料などを作成し、職員会議に提出して、皆でディスカッションしています。(写真2)

あきる野の山里に抱かれた自然環境の中で、施設も新しく、利用者も職員も若くて活気あふれる金木星の郷。

口腔ケアの取組みは、まだ始まったばかりですが、生活支援員に歯科衛生士が加わって、忙しい中にも楽しい工夫と実践が展開中です。



(写真1)
自分で歯みがきした後は、仕上げみがきをしてもらいます。慣れれば、お互いにリラックスモード



(写真2)
展示された資料の前で、瀧島歯科衛生士。



展示資料の一部を紹介します

誰の口の中でしょうか？

Dさんです。

上の写真は、5月18日に撮影したものです。

下の写真は、11月11日に撮影したものです。

どこが違うでしょうか？

矢印の部分の歯肉を見てください。赤く腫れていたところが、半年後には、こんなにきれいに治りました。毎日の歯みがき支援の成果がよく現れていますね。

働く喜び 社会参加 歯の健康

奥多摩町 東京多摩学園 (知的障害者更生施設(入所))

奥多摩の美しい山々に囲まれた東京多摩学園の1日は、朝6時30分、利用者の起床とともに始まります。まずは全員で廊下の拭き掃除。ほどよく空腹になったところで7時30分から朝食。それから、午前の作業に繰り出します。めぐまれた自然環境を生かし、しいたけ栽培、ニワトリや羊の飼育など、体をいっばいに使って汗を流す毎日の作業と、レクリエーションもある整った生活リズムの中で、利用者50人の心身の健康が養われています。(写真1)

健康管理の面では、囑託やボランティアの形で、医師や歯科医師の先生方のお世話になっています。歯科については、平成8年から、歯科健診と歯科保健指導のために、青梅市で開業している高橋先生が、スタッフとともに毎月1回来園しています。高橋先生が、現園長の山下更正さんのかかりつけ歯科医であったことが縁となって、今のような協力体制が生まれました。昨年、高橋先生の勧めで、リクライニング式車椅子と無影灯を2組購入しました。歯科健診がやりやすくなったことはもちろん、受診する利用者の意識向上にも役立っています。(写真2,3)

「障害者の場合、歯のことは、どうしても最後に回されがちです。痛くなってから治療するのはとてもたいへんです。だからこそ、日ごろの予防が大切なんです。」と、山下園長。

ご自身も障害者の親であり、過去にお子さんの歯の治療に際して、診てもらえる歯科診療所を探すのに、たいへん苦労した経験があるということです。

毎食後の歯みがきは、食堂内にある手洗い場で行っています。手洗い場はそれほど広くないため、歯みがきは男女別に、時間をずらして行っています。(写真4,5)

手洗い場の横には木製の手創り棚が設置され、50人分の歯ブラシとコップが、整然と収められています。(写真6,7,8) 当初、市販の歯ブラシ収納ケースの購入も検討しましたが、「50人もの集団の場で、誰にでも使いやすく、衛生管理に手間がかからない。」という条件に合うものは見つからず、結局、ボランティアの大工さんと職員が作成したということです。

園内には、このような利用者一人一人に合わせたソフト面、ハード面の工夫が、いたるところに見られます。

「その人なりに、持っている力を最大限に出して生きること」を目標にしている東京多摩学園の日々の生活の中に、歯の健康づくりも、しっかりと根を下ろしています。



(写真1)
レクリエーションタイムの
楽器演奏。



(写真2)
高橋先生の歯科健診。



(写真3)
歯を診ていただくのも
気持ちいい？



(写真4) 手洗い場には鏡があります。



(写真5) 介助みがきも丁寧に。



(写真6)
食堂の壁面に設置された、歯ブラシとコップの保管棚。



(写真7)
コップは逆さにして木棒にかける。



(写真8)
歯ブラシは上部のフックにかけてつり下げる。



(写真9) 山々を望むテラスの風景



(写真10) 楽しい作品の数々

障害者歯科保健医療対策マニュアル
～障害者のための8020生活実践プログラム・2 実践編～

いい歯イキキ実践レポート

平成17年3月発行 登録番号(16)11

編 集 東京都保健所

東京都西多摩保健所 東京都多摩立川保健所
東京都八王子保健所 東京都多摩府中保健所
東京都南多摩保健所 東京都多摩小平保健所
東京都町田保健所

発 行 東京都多摩立川保健所

郵便番号 190-0023
東京都立川市柴崎町2-21-19
電話番号 042-524-5171

印 刷 (株)タマタイプ

郵便番号 208-0002
東京都武蔵村山市神明2-78-1
電話番号 042-562-0965



「みんなで歯みがき」
武蔵村山市 えのき園実習室
森本 潤さんの作品